

【資料2】



## 2024年度 学外集中授業



### 《ゴルフ・キャンプ・馬術・スキー・スケート・マリン・スノーボード》

2024年度も、学外集中授業(学部間相互乗り入れ科目)が開講されます。選択科目のため、希望者のみの履修科目となります。「生涯スポーツ(夏季集中)・Ⅲ」は5コース、「生涯スポーツ(冬季集中)・Ⅳ」は5コースが開講されます。

そのうち、ゴルフ、キャンプベーシック(2コース)、スノーハイキング、スケート、マリンスポーツ、スノーボードについては**4月1日(月)【10時～】と2日(火)【13時30分～】(場所:和泉キャンパス体育館3階メインホール ※外履きを入れるビニル袋を持参すること)**に対面でのガイダンスが行われます。出席していなくても申込はできますが、抽選になった場合は対面ガイダンス出席者が優先となります。

対面ガイダンス出席の登録には、学生番号が必要となります。新入生の皆さんは、学生証配付前のため、「学生証引換証」を印刷のうえ、持参してください。

履修登録後は、特別な理由がない限り、参加を取りやめることはできません。

海外留学を考えている人は、対面ガイダンス時に担当教員に相談してください。また、学部設定の各種実習宿等の日程をよく確認してから申し込んでください。

ガイダンスを兼ねた事前授業の出席は、参加の必須条件となります。また、参加費用として、登録料、宿泊費、現地までの交通費などが必要です。

**履修登録期間** 4月3日(水)9時～4月5日(木)午前9時

**結果発表** 4月6日(土)9時頃、Oh-o! Meiji のクラスウェブに反映予定

★申込みに関する詳細は、年度始めの案内を確認するようにしてください。

#### 春学期(2024年9月中旬実施予定、事前授業は7月に実施予定)

1. ゴルフ ※	定員 30 名	費用	約50,000円
2. キャンプベーシック1期	定員 42 名(うち政経学部 21 名)	費用	約22,000円
3. キャンプベーシック2期	定員 42 名(うち政経学部 21 名)	費用	約22,000円
4. 馬術	定員 28 名	費用	約37,000円
5. マリンスポーツ	定員 18 名	費用	約50,000円
※ ゴルフ参加条件: ラウンド経験者もしくは半期ゴルフ授業履修者のみ履修可			

#### 秋学期(2025年2月下旬から3月上旬実施予定、事前授業は10～12月に実施予定)

1. スキー:ニセコ	定員 60 名	費用	約60,000～100,000円
2. スキー:裏磐梯	定員 40 名	費用	約46,000円
3. スノーハイキング	定員 30 名	費用	約55,000円
4. スケート	定員 40 名	費用	約37,000円
5. スノーボード	定員 30 名	費用	約68,000円

#### 補足

- ・申込みを行う前に、Oh-o! Meiji にログインしたうえで、必ず各コースのシラバスを確認してください。

## 春学期

<b>春1 ゴルフ</b>	<b>担当教員：後藤 光将(政治経済学部)</b>
折角授業でゴルフを習ったのだからゴルフ場でプレーをしてみたい。そんな学生のための集中授業です。ゴルフはターゲットスポーツです。小さなホールに向かってボールを正確に運んでいく技術が要求されます。ドライバーからパットまで多くのクラブを使ってショットをします。それらクラブでの飛距離と方向性の技術習得を目指します。紳士のスポーツと言われるゴルフの実施には、技術やルール以外に、服装やマナー、ラウンドの方法など学ばなくてはならない事柄が沢山あります。ラウンドレッスンや夜のミーティングを利用して、出来るだけ多くの知識を提供したいと考えています。生涯スポーツとしてゴルフを考えている学生は是非受講してください。	
<b>春2 キャンプベーシック1期</b>	<b>担当教員：高峰 修(政治経済学部)</b>
<b>春3 キャンプベーシック2期</b>	<b>担当教員：吉松 梓(経営学部)</b>
この授業では、自然環境の中でテント泊と野外炊事をベースにした生活を送りながら、キャンプを楽しむための知識・技術・マナー、野外でのリスクマネジメントや環境への配慮、集団で生活するための組織運営や役割分担の方法について学びます。また、こうしたアウトドアライフを基礎にして、サイクリング、トレッキング、クライミングといったアウトドアスポーツを体験します。それによって、将来的に野外活動を安全に楽しむための基礎知識と態度、技術を身につけます。煩雑な都会での日常生活を離れ、自然の中でシンプルな生活を送ることで、自然や仲間、そして自分自身について新しい発見をする機会を得ることができます。	
<b>春4 馬術</b>	<b>担当教員：長尾 進(国際日本学部)</b>
茨城県茨城町の中島トニアシュタール乗馬クラブにおいて2泊3日で行う実技実習と、その実習の前後に中野キャンパスにおける事前学修と事後学修とをセットにした集中授業です。実習では、同クラブ指導員のアシストのもと、馬体手入れや馬装の方法と、常歩(なみあし)、軽歩(はやあし)、軽速歩(けいすあし)の乗馬各歩様を学びます。経験者は駆歩(かけあし)に挑戦することもできます。講義では、馬術競技の概要と、世界の馬事文化や和鞍(わくら、日本式馬術)の知識を学びます。皆さんは、なによりもまず、馬の大きさに驚くでしょう！ それから馬の可愛さのとりこになり、またその賢さに舌を巻くことでしょう。動物と触れ合う機会の少なくなった昨今、貴重な体験のできる実習です。	
<b>春5 マリンスポーツ</b>	<b>担当教員：武田 紘平(政治経済学部)</b>
この実習では、海でシュノーケリングやスキndaダイビング、シーカヤック、遠泳を行う予定です。プールとは異なる環境でこれら活動に関する基本的知識・技術の習得と安全に実施する上での注意点の理解が主な目的です。実習場所の沖縄県渡嘉敷島近海は「ケラマブルー」と呼ばれており、ダイバーに人気があります。世界屈指の美しさで、運が良ければウミガメやクジラに会えるかもしれません。海に身を委ねサンゴ礁や色とりどりの魚など壮大な自然に触れてみたいという学生は、この授業を受講してはいかがでしょうか。	

## 秋学期

<b>秋1 スキー：ニセコ</b>	<b>担当教員：田中 伸明(文学部)</b>
スキーは楽しいよ！！ スキーは生涯にわたって楽しむことのできるスポーツです。在学中はもちろん、大学卒業後も生涯スポーツとしてスキーを楽しむための術をぜひ学んでください。本コースでは「未経験者から経験者までそのレベルに必要な板や身体のコツといった技術」、「より楽しくスキーをするための必要な知識」の習得を目指します。また、実習期間中にスキー級別テスト(バッジテスト)を実施する予定です。実習開催予定のニセコスキー場(メイングレンデはグランヒラフ)は、世界的認知度の高いスキー場です。本州では味わえない抜群のパウダースノー、そして、独特のニセコ文化にも触れてください。スキーは、風を感じることができます。みなさん、風を感じてみませんか。	
<b>秋2 スキー：裏磐梯</b>	<b>担当教員：水村 信二(文学部)</b>
雪さえあればどんな所でも滑ってしまえるスキー技術の習得を目指します。雪質の良い裏磐梯グランドコスノーリゾートスキー場では、緩急のロングコースをふんだんに楽しめます。また、林間コースで深雪も楽しめる穴場的なスキー場です。初心者コースも充実していますので、初心者の受講を大歓迎します。この素敵なスキー場で、様々な雪面のコンディションに合わせたスキー技術・理論の修得を通し、生涯にわたってスキー文化を育むことができる基礎を学びましょう。また、露天温泉風呂付きリゾート型ホテルでの宿泊を通して、学部を超えた受講生間のコミュニケーションを図りますので、新たな友達づくりも期待できるでしょう。これからのリゾート型スキーを体験してみませんか？	
<b>秋3 スノーハイキング</b>	<b>担当教員：多田 聡(法学部)</b>
「テレマークスキー」という歩くスキーを使って行うスノーハイキングの実習です。雪の原生林を歩いたり、登ったり、滑り降りたりする移動技術、雪山キャンプ技術、野外での安全管理、そしてソリや雪だるまづくりなどの雪遊びまで、雪山を丸ごと楽しむために必要とされる技術の習得を目指します。また、実施場所である長野県戸隠高原は古くから厳しい自然の中で人々が暮らしてきた地域です。日本の冬の自然環境や雪国の文化について理解を深めることもできるでしょう。 ※状況によりスノーシュー、かんじきなど他の用具を使用してハイキングや雪上活動をする場合もあります。	
<b>秋4 スケート</b>	<b>担当教員：後藤 光将(政治経済学部)</b>
心地よいスピードを感じながら、自分の身体全体を用いて意のままに氷上を滑走することは、他では得られない感覚です。寒い場所での体温調節は多くのエネルギーを消費させる有酸素運動であり、ダイエットにも効果的です。実習では、まず基礎スケータリングを習得します。集団で音楽に合わせて滑る“シンクロナイズドスケータリング”、氷上の格闘技“アイスホッケー”などにも挑戦します。野辺山高原は長野県の東端に位置しており、高原野菜の産地で有名です。滑走練習の合間には、近隣の牧場を訪問して、雄大な自然を体験する機会もあります。氷上での様々な活動を体験しながら、普段の都会の生活では感じるこゝろのない、すばらしい発見があるはずです。	
<b>秋5 スノーボード</b>	<b>担当教員：竹崎 一真(情報コミュニケーション学部)</b>
1998年の長野五輪の正式種目に選ばれて以降、スノーボードはスノースポーツの人気種目となりました。そこに近年のエクストリームスポーツへの注目が加わり、グレンデにはスノーボードを抱える若者が多く集まるようになってきました。スノーボードは、若者たちをグレンデへと誘い、スノースポーツの文化を豊かにする重要な種目となっているのです。しかしその一方で、グレンデでの事故やグレンデ外での遭難、グレンデでのマナー違反などが後を絶たず、スノーボードを禁止するスキー場も出てきています。スノースポーツの文化を持続可能なものとするためにも、スノースポーツにおける安全やマナーを理解し、実践することは大切です。そのため本授業では、スノーボードの技術習得はもとより、グレンデや雪山でのマナーや安全、危機管理についてもグレンデ内外で積極的に学びます。	